



黒岩探訪

たんぼう

36

KUROIWA
くろいわ

オオツノシカの化石骨

出土記念碑
鑑定書 出土記録

前号まで、富岡市立美術博物館に展示してある富岡中学校校区の文化財について、左の「二」及び「三」について述べました。

- 一 黒岩出土のオオツノシカの化石骨
- 二 弥生時代の黒川小塚遺跡
- 三 西小学校庭出土の富岡五号古墳の埴輪

今回は、「一」について紹介します。三校の先生方の研修で特別に本物を見させていただきました。これが二万年以上前に生きていた生物の化石で、発見されてから二百年以上たっているとは思えないくらいとても保存状態のよいものでした。オオツノシカの化石骨は、群馬県の指定文化財になっていますが、その出土記録が一緒にあります。このオオツノシカの化石骨そのものについては、すでに黒岩探訪6（昨

年6月22日号）で述べています。その最後で、「出土記念碑と鑑定書についてとは別の号で取り上げます。」と書いていました。今回ここに紹介します。【オオツノシカ化石骨出土記念碑】上黒岩打越の発見現場の近くに建てられています。寛政10年（1798）



の建立で、す。寛政10年（1798）6月24日に発見された。刻まれた骨の初見は、龍見考え

「龍骨」といわれていた。江戸時代の石造物として極めて貴重なものである。異なる。貴重なものである。物です。



【オオツノシカ化石骨鑑定書】

（『富岡市の文化財』より）

幅50cm、長さ7m以上の巻物になっていました。発見から三年後の寛政12年に書かれました。幕府老中松平定信の侍医であった丹波元簡が鑑定にあたり、絵師の谷文晁の実弟の谷元旦が原寸大の写生図を作成しました。（中略）鹿の一種に似ていると指摘しています。

【オオツノシカ化石骨出土記録】

（『富岡市の文化財』より）

幅18cm、長さ2m強の巻物で、七日市藩士大里頼雄の著作を後に本多和太吉が書き写したというもので、原本・写しとも製作年代は分かりません。化石骨は6月24日の土砂崩れで発見され7月17日には藩主の前田利以に献上されたことや、出土地付近は過去にも度々土砂崩れが起きていたことが記されています。この他、出土地の絵図、化石骨の略図なども書かれています。

価値

化石骨は、ほぼ完全な左右の頭角がそろっており世界的にもとても秀逸で、また精密に描かれた絵図や鑑定書は、化石発掘の記録としては日本最古の貴重なものです。黒岩の宝、富岡市・群馬県の宝といえるだけでなく、日本の宝、世界の宝に伝えている貴重なものです。